ひがし

区のマーク

恵光院に咲く菩提樹（ぼだいじゅ）の花。6月2日(日)開催の「菩提樹まつり」のころ、見頃を迎えます。

区役所代表電話 ☎631－2131

ホームページ 福岡市東区 検索

東区データ
人口 316,405人（+103）
男 153,749人 / 女 162,656人
世帯数 151,560世帯（+653）
平成31年4月1日現在推計（前月比）

期=日時、期間　所=場所　対=対象　定=定員　料=料金、費用　申=申し込み　問=問い合わせ　F=ファクス　✉=メール　HP=ホームページ　託=託児　持=持参　受=受付時間

6/1（土） 第3回なみき芸術文化祭 ～G20福岡 周知協力事業～

なみきスクエア（千早四丁目）で、第3回なみき芸術文化祭を下表の通り開催します。なみきホールのステージ（第2部）は観覧自由です。ひまわりひろばでは、区民が撮影した写真のコンテストを開催し来場者も投票できます。また、「G20福岡」開催を記念して、パネル展示を行います。

昨年のステージ（第2部）

詳しくは、東区役所・なみきスクエア・区内各公民館などで5月中旬頃から配布するプログラムか、区ホームページ（「なみき芸術文化祭」で検索）でご確認ください。※一部有料のイベントあり。

会場		時間	内容
なみきホール	第1部	午前10時～正午	九州管楽合奏団withさえきまゆこ、九州産業大学付属九州高等学校吹奏楽部による演奏※入場整理券の受け付けは終了
	第2部	午後1時～4時	東区で活動する団体・個人の歌唱や楽器演奏、ダンスなど。九州産業大学留学生の出演も
ひまわりひろば		午前10時～午後5時	写真コンテストの作品展示、日本文化体験など
並木広場		午前11時～午後4時	バザー、食の出店やミニステージ、アートのワークショップなど

【同時開催】 博多七五三吉（しめきち）おはじき彩色体験（所なでしこルーム期午後1時～4時）。

※来場の際は、公共交通機関をご利用ください。最寄駅：西鉄電車「西鉄千早」駅・JR「千早」駅・西鉄バス「名香野」「千早駅」バス停

にぎわう並木広場のバザー（昨年）

問東区区民フェスティバル実行委員会事務局（区企画振興課）☎645-1037 F651-5097

高齢者囲碁・将棋大会参加者募集

期7月3日(水)午前10時開会　所なみきスクエア（千早四丁目）　対60歳以上　料無料　申5月15日(水)から東香園（香住ケ丘一丁目）や各校区の老人いこいの家、区内各公民館で配布する申込書に必要事項を記入して、各校区のねんりんクラブ連合会会長または町内の単位クラブ会長へ。6月10日(月)必着。問区ねんりんクラブ連合会事務局 ☎645-1074 F631-5025

地域の頼れるボランティア
民生委員・児童委員にご相談ください

和白東

「民生委員・児童委員」は、地域から推薦され、厚生労働大臣の委嘱を受けて福祉や子育てを支援するボランティアです。区内では約460人が活動しています。

和白東校区民生委員・児童委員協議会では、「目配り・気配り・心配り」を合言葉に、23人の委員が日々の見守り活動などを行っています。

同協議会の奥田洋子会長（72）は高美台四丁目2区を担当し、1人暮らしの高齢者など特に配慮が必要な人は毎月訪問しています。4月5日には、地域に住む高齢者宅を訪問し、親族の連絡先やかかりつけ医を聞き取り、緊急時に利用する「福祉票」を作成しました。

訪問を受けた高齢者は、「奥田さんは何でも話せる身内のような存在で、頼りにしています」と笑顔でした。

奥田会長は「校区民生委員・児童委員は、見守り活動の他、同校区社会福祉協議会が主催する高齢者のための交流の場『サロン和愛（わあい）（毎月第3月曜日開催）』の運営にもボランティアとして関わっています。今後も委員で協力し、地域に貢献していきたい」と力強く話しました。

◇　◇　◇

民生委員・児童委員には守秘義務があり、プライバシーは守られます。何か困ったことがあれば、地区の民生委員・児童委員に相談してください。

【問い合わせ先】 区地域保健福祉課 ☎645・1086 F631・2295

民生委員・児童委員の主な活動内容

■住民の見守り・相談役

福祉や子育てなど日常生活の心配事に関する相談に応じます。

■情報提供と関係機関へのパイプ役

必要な人が福祉サービスを受けられるように制度を知らせたり、行政機関や関係団体へつないだりします。

■地域・行政事業への協力

乳幼児がいる家庭を訪問し、子育て情報を提供する「こんにちは赤ちゃん訪問事業」の他、地域独自の取り組みも行っています。

歴史 歩・歩・歩（さんぽ）
ボランティアのおすすめスポット
志賀海神社の『照龍（しょうりゅう）』扁額（へんがく）

「歩・歩・歩（さんぽ）・会」 加藤 徳生（72）

海神の総本山である志賀海神社は、神代より「龍（たつ）の都」と呼ばれています。

この神社には、第61代朱雀天皇のご宸筆（しんぴつ）『照龍』の扁額＝**左写真**＝があります。朱雀天皇の治世中（930～946）は、富士山の噴火、地震、洪水など数多くの災害や、各地で豪族・貴族の反乱が起こりました。志賀島一帯も大干ばつに襲われ、これを憂いた天皇が『照龍』額を奉納し、雨乞いの祈願祭を行いました。すると、境内横を流れる龍天川（現在は天龍川）から白龍が天に昇り、雨が降ってきたそうです。

この扁額は掛け軸に仕立てられ、非公開ですが志賀海神社の社宝として今も大切に保存されています。

今も流れる天龍川

雨乞いが行われた旧暦の7月7日を記念し、神社では毎年8月6・7日に七夕祭が行われています。七夕祭には、航海の安全と無病息災を祈願しに多くの人が訪れ、参拝者には神功皇后が三韓出兵から無事帰国できたことにちなんだ「事無柴（ことなきしば）」が授与されます。

◇　◇